

平成 25 年度四国中央市健康づくり推進協議会議事録

日時：平成 25 年 7 月 31 日 15 時～16 時 30 分

場所：四国中央市保健センター2 階研修室

1. 開会
2. 副市長挨拶
3. 新委員紹介・全委員自己紹介
4. 事務局自己紹介
5. 会長挨拶
6. 議事
7. 閉会

(1) 平成 24 年度保健事業報告について

説明：事務局

母子保健・予防接種・食を通じた健康づくり・健康増進・精神保健・保健対策の平成 24 年度実施内容等について、各担当より説明。

質疑等

野村委員：母子で頸定不確定とあるが、どういう状態のことか。

事務局：4 か月児健診の受診時に頸部の不安定な児の数であるが、翌月再度健診を受け、頸定（+）になっている。

野村委員：ロコモとはどういうものか。

事務局：筋骨格系の予防であり、介護予防の領域に入る。

吉田委員：乳児家庭全戸訪問であるが、子供が出産時里帰りをし、里帰りなのに訪問してくれて、非常に心強かった。自治体同士の連携はあるのか。

事務局：基本的には住民票のあるところで訪問を受ける。しかし本人が希望すれば、依頼状をいただき訪問し、状況を相手の自治体に伝え、連携をとっている。

竹内委員：訪問は非常に高い率で実施できているが、一握りの連絡が取れない方の状況は把握できているのか。訪問できない人への対策をとってほしい。

事務局：次に会える機会として4 か月児健診がある。非常に高い受診率であるし、またいろいろな機会を通し把握に努めている。

野村委員：今副反応等が言われている、子宮頸がんワクチンは実際はどうか。

竹内委員：副反応はあるが、やめた方がいい、というところまではきていない。予防接種を受けても、将来子宮がん検診は必要である。

事務局：情報として、6 月 15 日に 1 名接種したが、その後は 0 件である。

白石会長：他にご質問がなければ、次の議事にうつりたい。

(2) 平成 25 年度保健事業計画について

説明：事務局

親子の健康づくり・予防接種・壮年期からの健康づくり・こころの健康づくり・健康栄養・健康づくりについて、各担当より事業計画を説明。

質疑等

吉田委員：骨髄バンク事業の他市の状況はどうなっているか。

事務局：まだ全国的にも取り組みが少なく、他自治体から問い合わせの電話が多いが、他市の状況は十分把握できていない。

事務局：愛媛県では最初であると思われる。

野村委員：骨髄提供とはどういうことをするのか、みんな知らないのでは。怖いというイメージがあるのでは。リスクはないのか。

竹内委員：リスク 0 というわけではない。今までに死亡が 1 例あったとは聞いているが、あとは少し痛みがあるという程度。また、ボランティア精神で取り組んでいるが、仕事を休まなくてはならないというリスクがある。

竹内委員：健康づくり計画であるが、国・県は第二次計画を策定済であるが、市は義務づけられていない。今後どうするのか。

事務局：来年度評価して、次の計画を策定予定である。

石川繁子委員：ヒトパピローマに感染したら、症状はでるのか。

石川洋三委員：感染してもほとんどは大丈夫だが、中に子宮がんの原因となる場合がある。

白石会長：他に質問はないか。なければ、その他の協議にうつりたい。

(3) その他

白石会長：その他、事務局より何かあるか。

事務局：なし。

白石会長：それでは、以上で本会を終了する。

平成 25 年度四国中央市健康づくり推進協議会会議録

開催日時	平成 25 年 7 月 31 日 (水) 15 時から 16 時 30 分
開催場所	四国中央市保健センター 2 階研修室
出席者	委員 11 名 (白石文雄会長、吉田善三郎副会長、坂宗尚委員、石川洋三委員、竹内豊委員、野村勝廣委員、岡田美津子委員、石川繁子委員、加藤弘明委員、近藤之夫委員、寺尾るみこ委員) 事務局 (8 名)
傍聴者	0 名
会議次第	1 開会 2 副市長あいさつ 3 新委員紹介・全委員自己紹介 4 事務局自己紹介 5 会長あいさつ 6 議事 (1) 平成 24 年度保健事業報告について (2) 平成 25 年度保健事業計画について (3) その他 7 閉会